

2011 北海道トレセンU-12全道少年・少女選抜大会

HFAテクニカルレポート

2011年8月9～11日

【報告者】尾見秀樹 安田秀憲 浮田あきな

1. 事業の概要

8月9日（火）～11日（木）まで帯広市で開催されたこの大会には全道15地区のU-12トレセンとU-12コンサドーレ札幌、U-12女子トレセンが集まり、ゲーム・トレーニングを通して交流を図り選手の育成と強化をする大会となった。昨年度より男子と女子が同じ日程、同じ場所で行い交流をした。男子は1日目16チームを4チーム×4グループでリーグ戦を行い、2日目は各チームの選手をシャッフル形式で16チームに分け4チーム×4グループでリーグ戦を行った。3日目はチームに戻り順位決定戦を行った。特に昨年度より取り組み始めた2日目の選手と指導者をシャッフルでリーグ戦を行う形式は、選手のみならず指導者間の交流や選手選考などの利点に加え、コーチングで「守備に働きかけよう。」という共通意識を持って取り組むことができたのが良かった。

2. 1日目～地区対抗戦～

全体的には、ゴール前の攻防が数多くあるゲームが展開されていた。その一方で見えてきた課題もあった。

年々、減少傾向にあったGKやDFからロングキックであるが、リスクを恐れ優先順位を考えるあまりにFWへ精度の低いロングボールを出すチームが見受けられた。意図や判断のないロングキックが相手にカウンターをするチャンスを与え自らゲームの流れを悪くすること、DFの陣形を間延びさせる原因になることに気づき、育成年代で何を身につけさせるのかを再度、考えていきたい。また、相手のバイタルエリアに侵入した後の選択肢が少なく感じられた。シュートと決めたら相手がコースを切っても打ってしまうプレーのように、パスならパスといったプレーがあり、選択肢を持った仕掛けと相手のDFを崩す工夫が欲しいと感じた。

夜は、選手に対して「熱中症について」「オフザピッチ」「今日の試合から」をテーマに講義し、指導者に対しては上述の「1日目のリーグ戦を終

えての課題」と「明日のシャッフルゲームへ向けて」について話し合った。昨年のシャッフルゲームでのボールへのアプローチの距離が遠いことやボールを奪う意識が低くなったことを反省点として、今年度のシャッフル形式のゲームでは、コーチングで「守備に働きかけていく」ことを確認した。

その後、選手と指導者が一緒にグループ別ミーティングを行った。地区指導者が地区の垣根を越えて、自分のグループの選手のためにと熱心に打ち合わせしている姿が見られ、選手だけではなく指導者にとっても有意義な時間になったと思う。



3. 2日目

日頃、一緒にプレーしていない選手が集まりゲームをする経験は選手にとっても良い経験になったと思う。新しくできたグループ内でリーダー性を発揮する選手や、味方にコーチングでプレーの指示ができる選手、遠慮しながらプレーする選手など個性があり、この年代の選手たちにとってコミュニケーションをとる必要性や自分の意図したプレーを仲間と実現することの楽しさと難しさを感じる貴重な機会となった。

各地区指導者については、確認し合った「守備に働きかける」とことを念頭に、守備のトレーニングをする指導者がいたり、コーチングで積極的にアプローチの距離を縮めようと働きかけたりと、共通意識を持って取り組むことができた。そ

んな中、熱意に溢れた地区指導者からは、自分たちのコーチングや指導は正しいのか否かを道スタッフと相談する場面もあったのが成果の一つとも言えるだろう。お互いに目の前にいる選手の改善を目的にディスカッションすることが、選手のみならず指導者のレベルアップにもつながると感じた。

また、選手選考の観点からも選手自身のサッカーの理解や組織でカバーされていて見えにくかった個々の能力といった部分が如実に現れ、道スタッフ、各地区スタッフも選手の見方が変化したと思う。

宿舎に戻ってからのグループ別ミーティングでは、シャッフル形式のゲームを通して感じた選手自身の課題や、担当した指導者としてのアドバイスが送られ充実した2日目となった。



4. 3日目

選手、スタッフは各地区トレセンに戻り順位決定戦を行った。ここでも大会1日目での課題を克服しようと、各地区指導者からのコーチングは守備へのポジティブな働きかけが多く見られた。

女子

去年と同様に5ブロックより81名の少女が参加。1日目はブロック対抗ゲーム、2日目は事前に参加選手の地域と学年を考慮し、構成していた5チームにてゲームを行った。昨年度に比べると、選手全体的に「周りを観る」ことを意識してプレーしている選手が多く、さらには「良い判断」へとつながっていた。北海道全体のレベルが上がりがつつあるのではないかと感じられた2日間でした。また、男子と合同で行うことによって4種のスタッフをはじめ、多くの人に女子選手を見て

いただける良い機会であり、選手の情報共有の場となる機会となった。

1日目の夜には選手に対して食事と水分補給について、プレーに関して「周りを観て、コントロール&パスをしよう」ということを、映像と交えて選手にレクチャーした。また指導者間において意見交流の場を設けて、今後の活動について意見交換することができ、指導者にとっても良い大会となった。

5. まとめ

昨年に引き続き、2日目は選手をシャッフルする形式を試みたが、選手にとっては他地区の選手と同じチームでプレーする機会があり、よい経験になったと思う。また、指導者も他地区の指導者と協力し指導することでオープンマインドに話し合い選手の改善を目指していたのが印象的だった。U-12年代の指導者として、組織だけではなくサッカーの原理原則、基本を伝え、個人のスキルアップにフォーカスした指示を与えていたことなどから指導者にとっても良い経験になったと思う。是非、来年度もこの形式で取り組んでいきたいと考えている。

今年度から道内のU-12年代のほとんどの大会が8人制となり、各大会で様々な戦術やゲームプランが見られた。しかし、今大会においては来年度以降も個々のスキルアップのために「どのようなゲームをするのが望ましいのか。」「選手を伸ばすコーチングとは何か。」を常に指導者間で探りながら、共通の認識をはかる機会としたい。そして、クリエイティブでたくましい選手を育てるための刺激を与える場にしていきたい。

